

## 国宝 天守閣の復元めぐり議論百出

「尾張名古屋は城で持つ」というぐらい名古屋人にとって名古屋城は精神的な支柱であり、誇りだ（本来の意味は少し違うようだが）。この名古屋城がここのところ地元のメディアで話題になっている。

ひとつは耐震性に問題のある天守閣の建て替え。これを本来の姿に近い木造で復元するか、今のようなコンクリート製にするかで議論となり、さまざまな問題を抱えながらも河村市長の強い思いもあって市としては木造で再建する方向だ。

二つめは本丸御殿の完成。6月に残っていた部分が全て完成し、復元された狩野派の絢爛豪華な障壁画が訪れた人々を楽しませている。

三つめは金シャチ横丁のオープン。名古屋城の正門側と東門側にオープンし、「名古屋めし」が気軽に楽しめることや名古屋土産も購入できるとあって連日たくさんの観光客で賑わっている。

ここまでは内外を問わず名古屋にたくさんの人々に来ていただくために良い話題なのだが、一つめの木造再建についてちょっとした問題が発生している。名古屋城に関しては戦火で焼失するまで国宝だった天守閣を復元するために必要な資料がしっかりと残っていて史実に忠実に再建することになっている。

皆さんよくご存知かもしれないが、本当の城は戦闘用に造られているから階段はとても急で狭く、もちろんエレベーターはない。当然、バリアフリー化が求められるが、エレベーター棟があっては忠実な再建にならないというのが市としての見解だ。そこで登場した案のひとつがドローンで人を運ぶというもの。

「冗談じゃない？」と思われるかもしれないが大真面目な話のようで、他にも段差を登る車椅子ロボット、VRや分身ロボットを使うといった案まで出てきた。要するにバリアフリー化を新技術で実現しようというのだ。もし実現したらそれはそれですごいかもしれないが、本当にこんな議論をしていて世界中の老若男女をおもてなしの心で迎えることができるのだろうか。

まずは利用するお客様の目線に立って、便利で魅力的な行ってみたくなる名古屋城を再建するという基本に立ち返ってみたい。

中日新聞社名古屋本社広告局次長 須江 剛行



「史実に忠実」か「エレベーターは必要」か。名古屋城復元をめぐり論争はヒートアップを続ける。